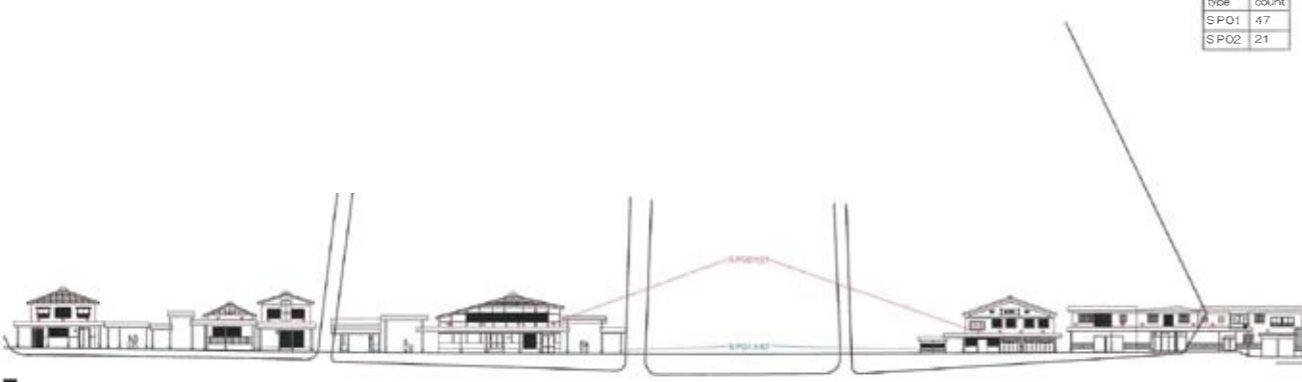


type	count
SP01	67
SP02	43



type	count
SP01	47
SP02	21



type	形式	ランプ	色温度(K)	ワット数(W)	ワット数小計(kW)	器具数計	型番	メーカー
SP01	アウトドアスポット	R50クリプトン球E17 50W	2800	50	5700	114	ES-8601H	ENDO
	ルーバ					114	B-491HA	
	ランプ					114		
SP02	アウトドアスポット	ビームランプE26 110V80W	2800	50	5120	64	ES-0947HA	ENDO
	ルーバ					64	B-603H	
	ランプ					64		

**ES-8601S** ¥8,500  
クリプトン球 (50W/100V) x114  
**ES-8601H** ¥8,500  
ルーバ (114個)

R50クリプトン球  
50W x114個

アルミダイキャスト  
高耐候性ガラス  
黒色塗装

作業人員設置可能  
人感センサー付 (照射範囲約2.5m x 1.5m)

ルーバ  
**B-491S** ¥6,800  
クリプトン球 (50W/100V) x114  
**B-491HA** ¥6,800  
クリプトン球 (50W/100V) x114

アルミ  
黒色塗装

**ES-0947SB** ¥13,800  
クリプトン球 (110V/80W) x64  
**ES-0947HA** ¥13,800  
クリプトン球 (110V/80W) x64

ビーム  
60W x120個

アルミダイキャスト  
高耐候性ガラス  
黒色塗装

作業人員設置可能  
人感センサー付 (照射範囲約2.5m x 1.5m)

ルーバ  
**B-603S** ¥6,000  
クリプトン球 (110V/80W) x64  
**B-603H** ¥6,000  
クリプトン球 (110V/80W) x64

アルミ  
黒色塗装

仕様書

R50クリプトン球 50W (E17)

ビーム 60W-120W (E26)



受託事業名  
**国道291号 越後闘牛街道エントランス整備事業**  
**大型案内板等製作設置業務**

発注者 新潟県(長岡地域振興局)  
 受託期間 平成20年3月31日～平成20年8月31日  
 プロジェクト主査 山下秀之

監理技術者 山下秀之  
 施工監理 山下秀之、江尻憲泰、山下真理子、桑野洋紀

コケ玉位置変更図 諏佐圭太郎、柿崎洸哉  
 コケ張り支援作業 渡辺宣一、諏佐圭太郎、柿崎洸哉、ケ・エム・イフテカル タンヴィル

施工担当 ダイエープロビス株式会社(朝野剛、小野田孝)

各種工事  
 EPS加工 ダイエープロビス株式会社(朝野剛、中沢良智)  
 土・コンクリート・ゴムチップ舗装 世紀東急株式会社  
 鉄筋 株式会社高橋鉄筋  
 型枠 株式会社竹田工務店  
 コンクリート 魚沼地区生コン共同組合  
 左官 株式会社吉岡工業  
 案内表示パネル 株式会社コトブキ新潟営業所(皆川正己)  
 同取付 有限会社サインズプロ(諏佐整)  
 コケ緑化・けやき植樹 有限会社苔匠(新保博臣)



新潟県が発行したパンフレット用の写真

□ 工事概要

工事件名 一般国道291号越後闘牛街道エントランス整備案内板工事  
 工事場所 小千谷市大字横渡地内  
 工事面積 約160m<sup>2</sup> (地表面に現れる面積:159.49m<sup>2</sup>)  
 工事概要 大型案内板(RC造)、案内板前広場(ケヤキ)  
 立体コケ造形(EPS工法)



□ プロジェクトの目的

中越地震により被災した越後の中山間地が復旧から復興への転換期に入り、生活・産業・観光の機能を取り戻しつつあります。山古志と小千谷を中心とする地域では、「牛の角突き街道」というコンセプトのもと、行政と民間がスクラムを組んでいます。この大型案内板は、地域のエントランス部分に位置する案内板としてデザインされました(詳細は長岡造形大学デザイン研究開発センター平成19年度活動報告書を参照)。

□ 施工概要

苔で緑化された球体群の環境造形について、100mm厚のEPSを、実施設計CADデータを元に自動で動く大型熱線カッターで切り出し、約800ピースをパズルのように組み合わせせて積層させ、貫通するロッドにテンションをかけた上、モルタルで外殻を固めた。その表面をコケで緑化すべく、コケが活着した中玉軽石を、あらかもタイルの湿式工法のように張り付けていった。また、あらかじめモルタルに固定した大玉軽石にコケを挟み込んで張り付けていった。





敷地現場にて既設アスファルトのカット位置の確認



基礎底版の配筋工事



精度が要求される案内板パネルの取付工事



ブロックBのEPS積層工事メンバー



ブロックBはモルタルまで完了、ブロックAはEPS積層工事中



トレイに残るコケもあとわずか、タッチアップの作業



除幕式にかけつけた東山小学校の子どもたちと牛太郎



モルタルへの軽石コケ貼りのモックアップ検討



ブロックAの曲面立ち上がりとスラブの仕上げ



1層目のモルタルでEPSの段々をつぶす



コケ張り作業は、2層目のモルタルと合い判で



大玉軽石の間に挟み込む方式も試してみた



暑い夏の作業がようやく終わった



同モックアップ詳細



コンクリート打設における木陸たたき



若職人、モルタル職人より学ぶ学生たち



新潟県職員の研修も行われ、道路際の緑化について検討した



新潟県検査官による竣工検査



模型に集まる子どもたち



基礎コンクリート打設前のスランプほかの確認



脱型後のコンクリート仕上げの確認



後施工による貫通ロッドの敷設



モルタル配合の研修でへびり腰の学生



除幕式後

01 準備・実験・施工開始

02 案内板のRC壁の製作

03 コケ造形のRC基礎の製作

04 コケ造形のEPS&下地モルタル

05 コケ張り作業

06 竣工に向けて

07 除幕式にて





受託事業名  
見附市柳橋町における規住宅地街区計画策定の検討

発注者 見附市  
 受託期間 平成20年7月1日～平成20年9月30日  
 プロジェクト主査 山下秀之  
 敷地分析/基本計画 山下秀之、曾宇泰子(元長岡造形大学教授)、丹洋祐  
 デザイン/設計 山下秀之、曾宇泰子  
 ドローイング 山下秀之、曾宇泰子、丹洋祐  
 プレゼン描画 桑野洋紀、丹洋祐  
 ブローチャー 丹洋祐  
 模型制作/写真 柿崎洸哉、諏佐圭太郎、佐藤舞、丹洋祐

□ はじめに

2007年10月31日に提出した「見附市市野坪町における新規住宅地街区計画策定の検討」のうちに、久住見附市長より「田園調布のような街並を考えたい」というお話がありました。

本計画策定においても、田園調布に類する円形レイアウトの住宅地街区計画が可能であることを、中間報告(2008年8月7日)において提案しました。合わせて、対案として正方形レイアウトの計画案も提案しました。両案ともに、実現可能であることを最優先にしています。別な言い方をすれば、現状の不動産マーケットからさほど逸脱しないことを前提としています。一般的な宅地レイアウトや、標準宅地面積80坪の設定も、購買層の動向を反映したものでした。

しかしながら、その中間報告で、久住市長は「一般的な宅地開発以上に魅力のある何か」をお求めになっておられることを知りました。それを持って、国にアピールしたいという目的があるとのことでした。つまり、一般的で実践的な宅地計画ではなく、見附市が所有する柳橋町の敷地でこそ可能である案を考えなければならない、ということでした。

そこで、わたしたちは、以下3つの視座のバランス地点で計画案を作るにしました。独創と一般、理想と現実のどこに着地点を見出すかは、むずかしい判断でしたが、満足の提案ができたと思っています。

- 1 21世紀の居住の中核を担う概念と言われる「北欧エコ・ヴィレッジ」
- 2 新潟でもまだ現存する「日本型集落」
- 3 一般的で実践的な「現代住宅地」

全体のイメージ

模型の大きさは900x900



□ 当該地区の計画策定にあたって、見附市からの指針・要望・計画条件

- 1 単に当該地区を住宅地として実践的に整備する計画ではなく、確固たるビジョンのもとづいて、これまでにあまり類のない計画を期待している。
- 2 市の所有地であるため、ある意味で「不動産市場に基づかない住宅地開発」の実現が可能であることを念頭においてよい。
- 3 市の環境向上の拠点とすると共に、これからの優良住宅地の在り方を、広くアピールできるような計画としたい。
- 4 見附駅西口団地に隣接し、産業団地にも近く、利便性を活かすこと。
- 5 画一的な区画割りを避け、「ゆったりとした「特色のある」住宅地としたい。
- 6 当該敷地は、見附市の所有地となっている(面積:約4.5ha)

□ 計画策定の方針

- 1 先の指針・要望・条件を受け、見附市の市政に沿い、少し先験的でありながらも実現可能な計画の提案としたい。
- 2 市政:花いっぱい、健康重視、未来農村 → 活気ある田園都市
- 3 見附市の今後の人口増加や変動のおよその予測に基づき、より多くの人口流入を促すような優良住宅地の計画とする。
- 4 見附市の環境構造を担う拠点として、利便性、安全性、快適性を表現する。
- 5 緑のインフラの核となる。 → 緑系・水系を活かした計画
- 6 エコロジカルな住宅地 → 土地特性を活かし、ソーラーシステムや雨水利用などの積極的な導入をはかる



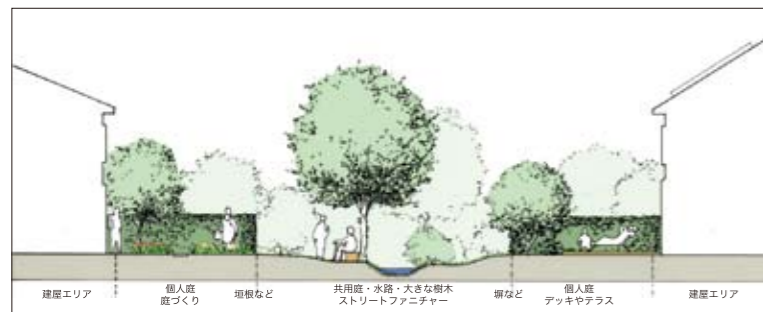
□ 地域・敷地の特徴  
 ・当該計画地は見附市の北西部に位置し、南側は既に整備された見附駅西口団地に接している  
 ・駅からの距離は、約400-500m  
 ・敷地は元水田で、面積約4.5ha  
 ・西側は真境川に沿い、産業団地へつながる緑道(幅12m)に接している  
 ・見附市災害ハザードマップでは、想定浸水深1-2mの区域  
 ・敷地の東側は、桜並木通りを隔てて水田農地。北側も水田農地







裏庭の水緑豊かな場 イメージ



裏庭の標準断面図



カフェテラス



□ 設計概要

前記のコンセプトに基づき、具体的な内容の検討を試みた。

- ・中央並木道 南端から貝喰川沿いの緑道へとつながる中心道路は、全幅で12m(車道6m、両側に3m歩道+並木)。当該地区のシンボルと考える。
- ・取り付け道路 その他の取り付け道路は幅6mとし、歩車混合空間とする。ここでは日常的には、車の通行は限られていると考えられ、遊び場、広場空間としても機能する。
- ・裏庭の水緑豊かな場 周辺地区とのつながる緑のインフラとしての中心並木道。宅地内の緑の固まりとしては、共用庭と個人庭の集合体。
- 水系・・・ 宅地の雨水は取り付け道路側と個人庭側の両方で処理されるが、なるべく庭側に表面水として導き、共用庭の中心に集めて、共用庭の空間を豊かに演出したい。また、実用的にも樹木の水やりや冬場の雪捨て場などに利用することもできる。

- ・宅地構成 宅地ユニットは標準80坪とし、60坪(建屋エリア)+20坪(個人庭)個人庭は連続して共用庭に面するように構成する。個人庭は様々な個性的な表情を見せ、共用庭と相まって豊かな緑の空間をつくり出すことを期待する。
- ・商業+住宅 中央並木道のはじまりには、商業施設用の宅地を用意する。中心並木道に面し、パーキングを設置する。南側には才川沿いの緑地に面したテラスを設ける。



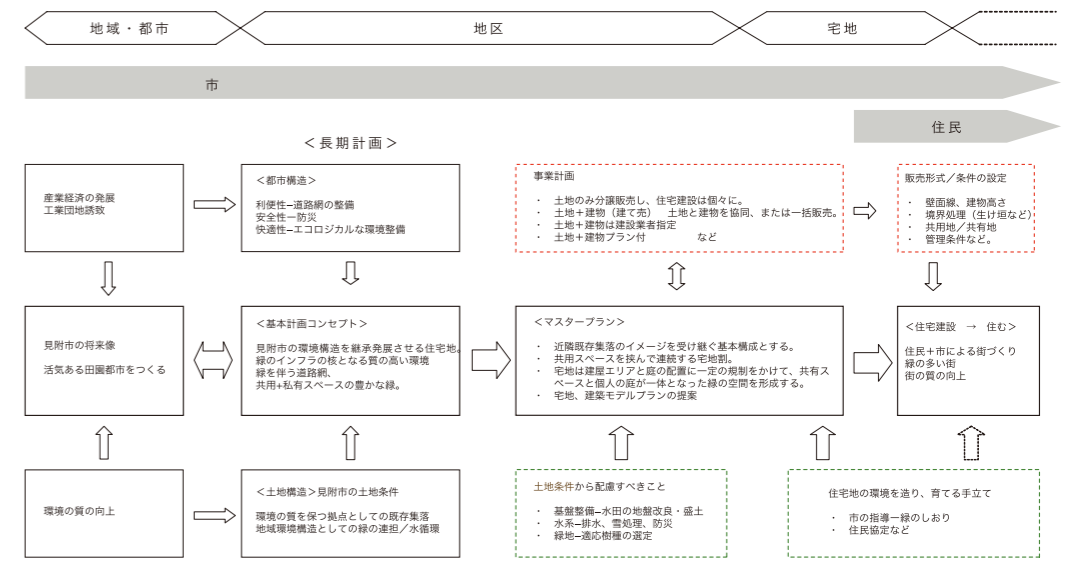
他検討案



最終案

中央並木道のイメージ

□ 柳橋町地区住宅地計画策定の枠組み



□ 面積表

計画対象地の全体面積	45563.9 m2					
A 幹線道路の合計面積	8500.0 m2					
B 宅地ブロックの合計面積	32316.1 m2	各ブロック(m2)	宅地(m2)	共有庭(m2)	フットパス(m2)	
		1 ブロックA	4063.8	2598.0	1465.8	0.0
		2 ブロックB	1267.2	726.0	541.2	0.0
		3 ブロックC	1036.0	965.8	70.2	0.0
		4 ブロックD	5962.6	4985.7	835.7	141.2
		5 ブロックE	8408.1	6922.7	1318.9	166.5
		6 ブロックF	8293.5	6840.6	1286.4	166.5
		7 ブロックG	3284.9	2309.9	909.0	66.0
		合計	32316.1	25348.7 *1	6427.2	540.2
C 商業施設ブロックの面積	1092.8 m2	1 商業施設	635.3 *2			
		2 テラススペース	457.5			
		合計	1092.8			
D その他のブロックの合計面積	3655.0 m2	1 調整池ブロック	2483.6			
		2 駐車場ブロック	1171.4			
		合計	3655.0			
E 調整池の面積	水面の面積		2442.9			

□ 宅地区画数と割合

宅地区画数	97 区画
商業施設区画数	3 区画
合計	100 区画
宅地の割合 (全体面積に対する)	57.0 % = (*1+*2)/45563.9m2x100

□ 事業計画の目安として

1坪=3.3m2として算出	25984.0 / 3.3 = 7873.9 m2	15万円/坪として算出	× 150000 = 1,181,085,000 円	11億8110万円 (消費税含まず)
---------------	---------------------------	-------------	----------------------------	--------------------

